輝ける企業

強さを探る

エフ・イー（根菜類の洗浄・選別機）

葉傷つけず きれいに

現場の声集め シンプルに改良

青々とした葉の付いたダイコンは新鮮な証し。市場でも人気が再び高まりつつあるが、葉を傷めないための手洗いは、農家にとって煩雑だ。葉が付いたまま効率的に洗う装置はないか―。こんな声に応え「葉付・葉切大根洗浄機」を開発したのが機械装置開発のエフ・イー（旭川市、佐々木通彦社長）だ。

二〇〇二年の発売以来、百五十台以上を販売。昨夏には韓国北部の農業生産法人へも一日三万本を洗浄できる中規模装置を商社などを介さず直接輸出した。

韓国では葉付きダイコンを泥付きのまま出荷する例がほとんど。きれいに洗うだけで一本当たり三百―四百ウォン（約四十―五十円）高く取引され、他の農業法人なども注目。中国やカナダなどからも引き合いがある。

洗浄機はブラシを回転させ扇状の特殊ノズルから高圧水をシャワーのように噴射する。ブラシがふくんだ水がダイコンの表面を覆い、葉や実を傷つけず洗浄する。

投入口に収穫したダイコンを次々放り込む。ダイコンは回転しながら葉の部分を絞ったようにまとめ、わずか五秒で泥が落ちて出荷できる状態になる。大型装置なら、葉付きは一時間で最大二千五百本、葉切りなら五千本処理できる。

《企業概要》
▽本　社　旭川市
▽設　立　1959年
▽資本金　1500万円
▽社員数　20人
▽売上高　3億5000万円（2007年3月期）
▽ホームページ　http://www.fesystem.co.jp/

農機具メーカーで設計を担当していた佐々木社長は、一九八三年に家業を継ぐため佐々木鉄工に入社。しかし、主力の木工用機械などは、国産材が安い輸入材に押されたあおりで先細りの状態にあった。そこで農業機械への進出を決意。製缶などを得意とする地元の甲斐鉄工と九一年に合併し、社名を変更した。

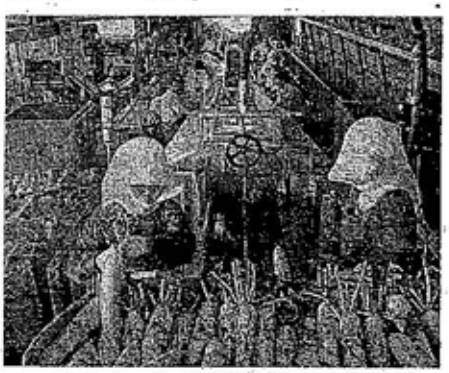
ダイコンの洗浄機は、佐々木社長が会社員時代から温めていたアイデアという。「全国で一年中栽培されるが、日持ちせずかさばる農作物。そのため輸入されにくい。ダイコンに対応できれば、あらゆる農作物に応用が可能と考えた」

ブラシの水膜作用など基本部分の特許取得を待って、国内販売を開始。特に営業はしなかったものの、使い勝手の良さや洗浄されたダイコンが市場で高く売れることなど、農家の間に口コミで評判が広がり、販売台数が伸びていった。

中小企業金融公庫旭川支店の藤井修二支店長は「最大の強みは機械を実際に操作する人の声を集めるアンテナ」とみる。社員が全国を訪ね歩き、作業現場でもヒアリング。それを開発や改良に生かす。「壊れにくく、マニュアルを見れば簡単に修理できるシンプルな装置を心掛けている」（佐々木社長）ことも支持を得る一因だ。

焼酎原料向けの「サツマイモ洗浄機」「長芋洗浄機」「小型大根洗浄機」……。全国の農家の依頼で応用範囲は広がる。浄水場で使われる、ろ過用の石の洗浄機など環境分野にも進出した。

既存製品に磨きをかけることにも余念がない。作業する人が疲れにくい色やデザインなどを追求するために北海道東海大学と連携した。「小さな会社でも、顧客の需要に応えたものなら通用する」（佐々木社長）と、世界を目指す。



エフ・イーの「葉付・葉切大根洗浄機」は葉を傷めず洗うことができる

ひとくち解説

道企業、畑作機械　高シェア

北海道農業機械工業会によると、道内メーカーの農業機械生産額は年間二百億円程度。国内のトラクター向け畑作機械はほぼ一〇〇％、トラクター向け酪農機械も七割のシェアを占める。

輸入農産物に対抗するため、道農業は高付加価値化や作業効率の向上などが急務。新たな農業機械が開発できれば、競争力向上の大きな武器にもなる。